

仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2022年5月号

森のおくりもの5

NO.368 The Gift from Woods

(ヤマツツジの丘)



【写真：レンジャー 齋正宏】

萌黄色の世界から、緑のまぶしい季節になりました。木々の花も咲き始め、見ごろを迎えるヤマツツジは遠目でもその鮮やかな花色は目を引き、自然観察センター近くの「ヤマツツジの丘」ではたくさんの花たちが迎えてくれます。これらのヤマツツジ、花びらには濃い斑点があり、「蜜標」と呼ばれる模様がアゲハチョウなどに蜜の場所を教える目印になっているそうなので、花の素敵な表情をぜひ見に来てください。アゲハチョウが舞う姿も楽しめるかもしれませんよ。

【文：館長 佐藤由美】

森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

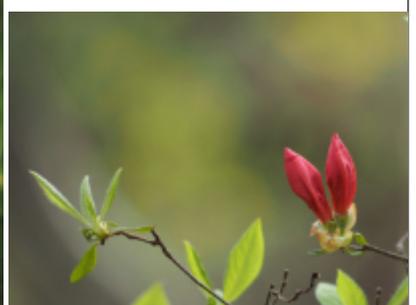
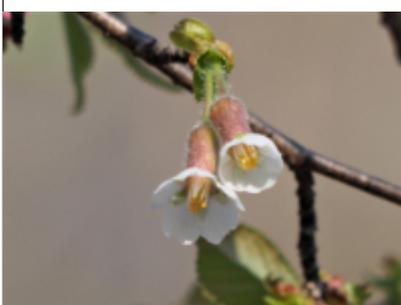
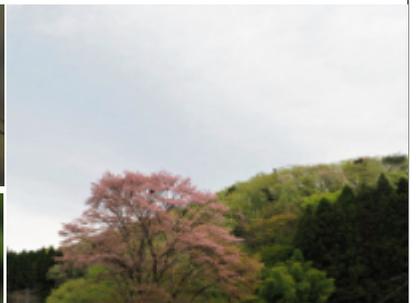
『三日見ぬ間の桜』（みっかみぬまのさくら）

お花見、桜といえばソメイヨシノですね。仙台での今年の開花は、平年と同じ4月8日でしたが、満開は平年より2日早い11日でした。開花から概ね5日くらいで8分咲きになり、そこで満開の発表となるそうですが、仙台や宮城南部では急に暖かくなったため、わずか3日で一気に満開となりました。しかし、見頃になったのも束の間、天気が崩れて花散らしの雨が降ってしまい、花が1週間も持たずに散ってしまいました。私の休日のタイミングが合わず見頃を逃してしまい、「三日見ぬ間の桜」だと思いました。しかし、その言葉は三日見ないうちに桜が散ってしまうという意味ではありませんでした。

『三日見ぬ間の桜』とは、もとは江戸時代中期の俳人、大島蓼太の句「世の中は三日見ぬ間に桜かな（三日外出しないでしたら桜の花が咲き揃っている）」からきているのですが、そこから世間の移り変わりが激しいことを桜の花があつという間に散ってしまうことに掛けた言葉になりました。江戸時代もいろいろあったのですが、現代も様々な問題や話題が次々と入れ代わり立ち代わり起きて、変化のスピードはきっと引けを取らないでしょう。

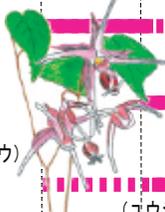
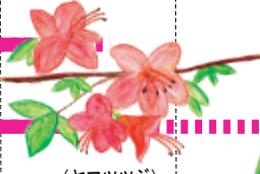
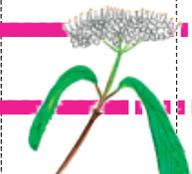
ソメイヨシノには、2月1日から一日の最高気温を足していき、合計600℃になった時に開花する“桜の開花600℃の法則”があるようです。開花時期が早まるということは、早くに600℃に達してしまうということです。山の桜も以前は5月上旬が見頃だったのが、4月末には散ってしまいました。このような現状をみると、昔と比べて平均気温が上がっていることを実感します。

5月までは自然の変化が特に目まぐるしい時期です。ケヤキ並木が、いつの間にか新緑の風景になっていて驚きました。あつという間に変化する、素敵な光景を見逃さないようお楽しみください。 【レンジャー：新田隆一】



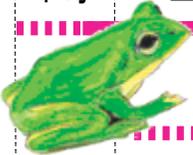
5月の生物ごよみ

植物

	4月		5月		6月
	下旬	月上旬	中旬	下旬	月上旬
イカリソウ					
ユウシュンラン (イカリソウ)					
ヤマツツジ					
チゴユリ					
ミヤマガマズミ					
ヒメシャガ					
ウワミズザクラ					
マルバダケブキ					

昨年も展示していた『シュレーゲルアオガエル』の生体展示を5月初めから開始する予定です。これは2年前にヨシの湿地で採取した卵を孵化させ、生体展示を始めてから3年目に入ります。冬は生体に負荷をかけないため冷蔵庫の中で冬眠させていました。4月末に確認したところ、7匹中6匹の確認ができました。展示期間中、生体は生き餌しか食べないため給仕が大変です。今シーズンからはカエルの給仕のためエサとなる昆虫がつく植物を育てるなど様々な思考を凝らしています。機会がありましたら是非見に来てください。 【レンジャー: 齋 正宏】

動物

	4月		5月		6月
	下旬	月上旬	中旬	下旬	月上旬
シュレーゲルアオガエルがヨシの湿地で鳴き始める					
サンコウチョウがやってくる (※夏鳥)					
ホトギスが鳴き始める (※夏鳥)					
オトシブミがゆりかごを作る					

※夏鳥 春に東南アジアなどの越冬地から日本に渡ってきて繁殖し、秋には帰っていく鳥。日本にいる期間は種類によって違うが、おもに3月～10月の間になる。

森の「あれこれ」



「ようこそ！夏鳥たち」



「あ！いた!!」新緑の芽吹きが始まった樹々の間をせわしく飛び回る小鳥、センダイムシクイです。スズメよりも小さく、オリーブ緑色の背中をしていて、じっとしていると新緑にまぎれて見分けがつかず。観察の森では4月下旬に渡って来て子育てをする「夏鳥」です。“ツルチヨギミー”とたとえられるさえずりで、そこにいる！と気づきます。



左の写真ではガの幼虫をくわえていますね。センダイムシクイが、なぜ遠い南の国から日本までやって来るか（すごく簡単に説明すると）この柔らかい栄養たっぷりのイモムシたちがいるからです。初夏、樹々の葉が一斉に芽吹き、それを餌とするイモムシや多くの昆虫が爆発的に発生します。子育てをする鳥たちにとっては、大切な食糧です。樹々にとっても鳥たちがせっせと虫を食べてくれて助かってるはず。でないと虫に葉を食べつくされたら困るから。

虫だって負けてはいられません。全員食べられたら一大事。だから枝や葉っぱに体を似せて隠れたり、毒で体を守ったり、沢山のタマゴを残して命をつなごうと必死です（それがまた野鳥の子育てを助けたりして）。食べたり食べられたりの自然の世界ですが、一方で生きものたちが力をあわせて森をつくっているようにも思えます。こうしている間にも、コサメビタキやサンショウクイもやって来ています。オオルリの目撃写真を持って来た方がいらっしゃいます。ようこそ夏鳥たち！【レンジャー：木田秀幸】

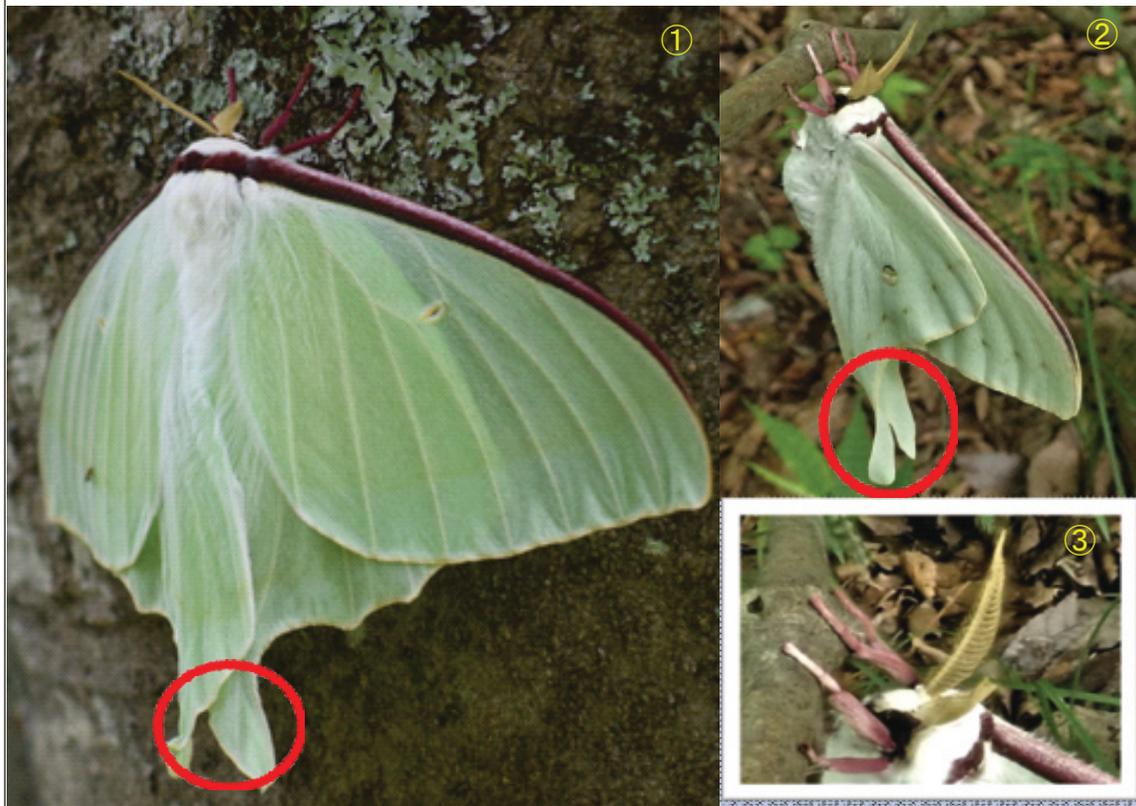
森は糸



森は布

森は様々な生き物が互いにつながって
森として生きているんですね (*_*)

木にアゲハ蝶にも劣らぬ大きな蝶(写真①)がとまっていました。薄緑色の翅の上部に小豆色の縁取りがくっきりと目立ちます。体がふわふわの毛でおおわれたヤマユガ科のオオミズアオのようです。かつて学名にギリシア神話の月の女神アルテミスの名が冠されていた美しいガです。初夏から8月にかけて年に2回発生しますが、①の個体は前年に蛹で越冬し、5月に羽化した春型です。触覚の形から雌であることが分かります。写真②は夏に発生した個体で、触覚(写真③)が櫛状であり雄であることがわかります。後翅の先(赤丸)が雄は雌より長くなることが多いようです。②の個体も羽化直後の美しい体をしてますが、僅か1、2週間の寿命です。……(。)



ヤマユガ科の多くは羽化後の体に口がありません。幼虫の時期に食べた栄養だけを頼りに残りの時間を生きていきます。雄は触覚を発達させ、雌が出すフェロモンを感知して雌を探します。灯火に集まる習性があるようで、夜、明かりに照らされた白く大きなガにびっくりした方もいると思いますが、もしかしたらオオミズアオかもしれません。強く羽ばたき必死で出会いを求めるとか、翅はぼろぼろになっていることが多く羽化後の美しさで出会えるのは珍しいことです。雌は交尾後、1週間ほどかけて1か所に4~7個程の卵を産み、全体で400~600個を産みます。しかし、成虫まで生き延びるのはせいぜい1%ほどと言われています。幼虫はバラ科やブナ科などの葉を食べ、時に害虫扱いされることもありますが多くは食物連鎖の中で他の生き物に食べられ命を落としてしまいます。しかし、命が命を支え、最終的には植物を支える土として森の生き物が生き続ける土台になっていることも事実です。 【レンジャー: 菅原幸彦】

5月のイベント & お知らせ

イベント

新型コロナウイルス感染拡大や天候の急変等でイベントについても変更となる場合がありますので、太白山自然観察の森のブログ等でご確認お願い致します。

参加の際、新型コロナウイルス感染対策のため同意書の記入をお願いしています。

◆「おはよう野鳥かんさつ」5月14日(土)6:30~8:00

【定員】15名(先着) 中学生以下は保護者同伴

【持ち物】飲み物、雨具、帽子、暖かく歩きやすい服装と靴、(あれば)双眼鏡

【申込み】5月6日(金)午前9時より電話受付

◆「若葉の森の自然あそび」5月14日(土)10:00~12:00

【定員】小学生とその保護者10名(先着)

【持ち物】飲み物、雨具、帽子、歩きやすい服装と靴

【申込み】5月7日(土)午前9時より電話受付

◆「初夏の鉤取山ネイチャーウォーキング」5月28日(土)10:00~15:00

【定員】小学生以上15名(抽選) 中学生以下は保護者同伴

【持ち物】昼食、飲み物、帽子、雨具、歩きやすい服装と靴

【申込み】往復はがきに住所、氏名、年令、当日連絡のつく電話番号を記入の上
5月13日(金)必着(一通につき4名まで)

着任のご挨拶

4月から館長に赴任しました佐藤由美と申します。日々変わりゆく自然の姿にドキドキワクワク一喜一憂し、「蝶の野原ではヒメギフチョウの羽ばたきに感動してしまいました。心の中で「きゃーッ」目がキラキラになってましたよ。フフ。虫も植物も大好きなので皆さまよろしく願いいたします。どうぞお気軽にお声がけください。

ガイドウォーク

毎週日曜日開催

申込み不要、どなたでも参加できます。

開催日: 1日, 8日, 15日, 22日, 29日

時間: 10:00~11:30, 13:30~15:00

(11月まで午前と午後の2回開催)

休館日



2日, 9日, 16日, 23日, 30日

毎週月曜日休館、月曜日が祝祭日の場合は火曜日休館

観察の森へのアクセス

宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
- ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
- ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分

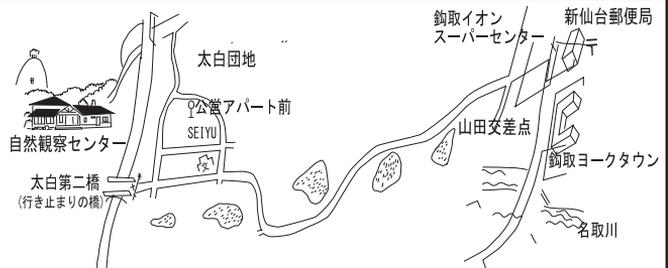
【行先】①②③「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」

※③のみ「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」

いずれも 公営アパート前 下車→ 徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。
駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財) 仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター